

★*.....*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリイマンの物語」～感謝の風船レター～

2015.6.19 vol.62

★*.....*★

☆ご あ い さ つ☆

皆様、いつもありがとうございます。

沖縄は早くも梅雨明け、
その他の地域では梅雨空が続きますが、
皆様いかがお過ごしでしょうか？

今年も各地で雷に突風、局地的な大雨など
異常気候の影響が出始めていて心配です。

大きな被害が出ませんように
毎日心から祈っています。

さて、本日から「今を生きるスターリイマンの物語」の
第21話をお送りいたします。
最後までお読みいただけましたらとても嬉しいです。

☆第21話「今を生きるスターリイマンの物語」
森を守り森を未来へつなぐ環境創りに貢献する企業家

～第1章 石坂産業株式会社 代表取締役社長 石坂典子氏との出会い～

私が石坂産業株式会社の石坂典子社長と初めてお会いしたのは、
2013年8月25日のことでした。

石坂産業さんは、産業廃棄物を資源に変えるための
廃材処理プラントやリサイクル製品製造会社で
私たちが住む埼玉県の三芳町という場所にあります。

石坂産業株式会社HP <http://ishizaka-group.co.jp/>

お会いするきっかけは、この「今を生きるスターリイマン」の
第1話でご紹介させていただいた日本理化学工業の大山泰弘会長をはじめ
スターリイマンのような心ある皆様とのご縁をつないでくださっている
ジャーナリストの瀬戸川礼子さんからの以下のメールでした。

(中略)

石坂産業は、経済産業省「おもてなし経営企業選」で選ばれた、埼玉県が誇る優れた企業です。志高い女性経営者です。私も選考委員として感銘を受けました。産業廃棄物処理の会社のイメージをくつがえす品位があります。

隣接する「くぬぎの森」を守る活動にも積極的です。生物多様性改善の評価「ハビタット」でAAAの最高認証も取りました。

この資源を活かし、「輝く子どもたちの健全な発育と環境教育の促進」のために「くぬぎの森交流プラザ」の建設を希望されていますが、市街化調整区域であるため、まったく進まない状況です。

埼玉県にとっても必要な場になると思いますので、どうか、知事にご配慮いただけたら幸いです。

たくさんの志高い企業さんを応援なさっている瀬戸川さんからの熱い思いのメールに、私は何かお役に立ちたいとすぐに思いました。

そして、いただいたメールに添付されていた「くぬぎの森交流プラザ」建設計画書を読んで、こんな素晴らしい企業さんが埼玉県にあることに感動し、絶対に形にしなければとの強い思いが湧き上がって来ました。

それと同時に私たちが生きているこの地球のことを思いました。

地球は46億年もの歳月の中で、豊かな自然と共に多種多様な動植物の命を育み、かけがえのない生命を支え続けて来ています。

しかし、私たち人間は、便利になることを追い求め産業革命以後のたった200年余りで様々な環境問題を引き起こし、取り戻せない程に変えてしまいました。

石坂産業さんの提案する「くぬぎの森交流プラザ」の建設は、そんな現状と真っすぐに向き合い、自然と共に生きる昔ながらの循環型社会の形から地球からいただく恩恵や地域の歴史・文化を学ぶことで、地域の財産を守り、後世に残していく大切な事業です。

きっと埼玉だけではなく、日本中、世界中の人々が地球の未来をつなぐためのモデルになると確信しました。

一刻も早く（埼玉県の）上田知事にお伝えして、建設のためのお力添えをいただけるようにしよう！私は誠心誠意をこめて、知事にお手紙を書きました。

そして、お手紙をお送りしてから3日後。埼玉県庁から早速ご連絡をいただき、担当者の方と石坂典子氏をお繋ぎすることが出来ました。

お手紙によって現状を知った知事が、すぐに建設許可に向けて動いてくださったのです。いつもながら迅速な対応に感謝でいっぱいになりました。

このことを典子社長がとても喜んでくださって、後日、瀬戸川さんから「典子社長がぜひ芳見さんにお会いしたいとおっしゃっています」とご連絡をいただき、石坂産業さんにお伺いさせていただくことになりました。

最寄り駅で瀬戸川さんと待ち合わせをして車で石坂産業さんに向かう道すがら、たくさんの産業廃棄物処理業者さんが見受けられました。

しかし、石坂産業さんの敷地が見えてくると明らかに他の業者さんと違うことが一瞬で感じられました。

まず、駐車場に入ろうとすると社員さんが爽やかな笑顔で誘導してくださって、車から私たちが降りると「こんにちは！いらっしゃいませ！」とすれ違う皆様から元気な挨拶をいただきました。

本社に入り、エレベーターに乗ると、ヒーリング音楽とラベンダーの香りに包まれました。

そして、3階の受付から応接室にご案内していただき、お部屋に入って最初に目に飛び込んだのは眼下に広がる広大な雑木林の美しい緑でした。

「わぁ！素敵ですね」思わず感嘆の声をあげながら景色を眺めていると、典子社長がいらっしゃいました。

「わぁ！綺麗な女性」作業服を着ていらっしゃいましたが、女性の私でもドキドキしてしまうほどの輝くオーラをまとった美人な方でした。

それから、典子社長から直々にご説明をいただきながら、社内をご案内していただきました。

東京ドーム3.5倍の広さもある
石坂産業さんの全容を見学させていただき、
そのすべてが驚きと感動の連続でした。

1999年に所沢市で起こったダイオキシン問題で
石坂産業さんも地元の方々から大きなバッシングを受け、
お父様が1972年に創業された会社は存続の危機に立たされました。

2002年に典子さんが取締役社長に就任し、
産業廃棄物を資源に変えるリサイクル工場に改革させ、
数々の取得困難なISO認定に合格しました。

石坂産業さんが主に扱っている産業廃棄物は、
個人住宅などを解体した際に出るガレキ類に特化しているそうです。

しかも、持ちこまれる廃棄物のほとんどは、
資源ゴミも不燃ゴミも分別されていない混合廃棄物と呼ばれるもの。
それを機械や手作業で細かく選別し、
再生チップや燃料、砂などに変えることで、
減量化・リサイクル率は約97%になるとのこと。

このようにリサイクルできる企業は、
日本でも石坂産業さんを含め、3社しかないそうです。

ダイオキシン対策として屋内処理を行うようになった工場内。
作業されているお一人お一人が、私たちに気づくと
ガラス越しに笑顔で会釈をしてくれます。

社員さんがご自身のお仕事に誇りを持って行っていることが、
廃棄物を再び喜びの種へと変える力になっていると感じました。

1時間以上の充実した工場見学を終えて、
一旦応接室に戻ると、三芳町の地の食材を使った
地産地消の美味しい手作り弁当をご馳走になり、ホッと一息。

いよいよ午後からは、くぬぎの森の見学です。
くぬぎの森に一步入ると、木々を通る風の声が、
「ようこそいらっしゃい」と
私たちを歓迎してくれているように聞こえました。

社員さんによってきれいに手入れされている
森の木々が残暑の厳しい日差しを遮ってくれ、
一步一步、森の奥へ歩いて行くたびに
心も身体も開放され安らいでいくのを感じました。

鳥たちのさえずりや、みつばちや蝶の羽音。
クワガタなどの樹液に集まる甲虫達。
足元で揺れる植物や花々。

ここに生きとし生ける生き物達が、
お互いに手を取り合って、光も水も空気も土も
みんなで分け合って一緒に暮らしている。

「私たちは自然の一部、みんな仲間なんだ。」
柔らかくひんやりとする土の感触を楽しみながら、
夢中になって森の中を歩きました。

木漏れ日の中を凜と歩く典子社長は、
この森に力強く美しく花咲く
やまゆりのようだなあと思いました。

幸せな時間をたっぷりいただいて
応接室に戻った私たちは、
典子社長に、今日の心からのおもてなしのお礼にと
ふるさとの原風景をテーマにした
スターリマンの作品を何点かご覧いただきました。

そして、典子社長に一番気に入っていただいた
長野県伊那市の作品のお話を朗読させていただきました。

とっても感動してくださった典子社長は、
是非くぬぎの森の絵を描いてほしいと
作品の制作のご依頼をいただきました。

くぬぎの森で感じたことを思い起こしながら、
典子社長の想いを作品に込め、
2013年11月11日に社員さんの前で朗読と共に
発表させていただきました。

森の中を歩くスターリマンを
木々や鳥たちがやさしく迎えます。

このくぬぎの森の豊かな恵みを
多くの方が受け取ることが出来るような
そんなくぬぎの森交流プラザが出来る日が
とても楽しみでいっぱいになりました。

そして、今年の4月4日には
山桜が美しく咲き誇る中、
くぬぎの森交流プラザの棟上げ式があり、
私も参加させていただきました。

昔ながらの伝統的な棟上げ式で、
関係者の方や地域の方々をおもてなしなさって、
明るい笑い声と喜びに溢れていました。

数々の困難を乗り越えながら、
みんなで夢を叶えていく過程は、
本当にワクワクしますね。

来年4月には完成するとのこと。
とても楽しみです。

石坂産業さんのある地域一帯は、
昔から「三富」と呼ばれています。

この三富に代々受け継がれてきた、
くぬぎの森の命を守ることは
今を生きるもののためだけでなく、
ずっとずっと先の未来へつなぐ
かけがえのない贈りもの。

そんなふるさとの素敵な贈りものを育てている
スターリィマンの典子社長に出会えて、
本当に良かった。

瀬戸川さんありがとう！上田知事ありがとう！
つないでくださったすべてのご縁にありがとう！

これからもこの素晴らしいご縁を大切に、
私たちもスターリィマンの作品を通して
皆様と共に、くぬぎの森の贈りものを
お届けしてゆけたらと心から願っています。

「今を生きるスターリィマンの物語」
☆第21話の第2章は、6月29日(月)配信予定です！

石坂典子氏との出会いは
いかがでしたでしょうか？

出会いのきっかけになった
瀬戸川さんからのメールは、
ちょうど2年前の6月2日でした。

あれから2年が過ぎ、
今ではこうして石坂典子氏を
メルマガでご紹介させていただけるまで
ご縁を育ませていただきました。

是非、このメルマガをきっかけに
読んでくださった皆様が、
石坂産業さんやくぬぎの森と出会うきっかけになったら
私はとっても幸せです。

そして、くぬぎの森もきっと
喜んでくれるのではと思います。

このメルマガの原稿を書きながら、
典子氏にくぬぎの森を案内されて歩いた時のことを
昨日のことのように思い出しました。

ああ！いますぐにまた森に行きたい！
子どものように心が躍ってきました。

この梅雨の時期が終わったら
くぬぎの森には、やまゆりや蛍など、
多くの動植物が命の躍動を見せてくれるでしょう。

あの美味しいお弁当をいただきながら、
美しいくぬぎの森の伊吹を体感したら
どんな素敵なことが待っているでしょうね。

皆様も是非、見学に出かけてみませんか？
<https://www.ishizaka-group.co.jp/village/access.php>

さて、今回は「今を生きるスターリィマンの物語」
第21話の第2章をお送り致します。

配信は、6月29日(月)です。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

☆後 記☆

来週の22日～24日まで
夫のはせがわいさおと娘の祐希は
沖縄に行く予定です。

23日は沖縄戦の犠牲者を追悼する「慰霊の日」。
今年は戦後70年にあたります。

スターリマン紙芝居プロジェクトを通して、
たくさんの沖縄の子ども達と出会いました。
そして、心温かな沖縄の皆様と
たくさんの素晴らしいご縁をいただきました。

そんな大切な皆様の沖縄の未来が、
どうか平和でありますようにと祈りながら
沖縄の原風景の中を旅するスターリマンの作品を
これから描いていく準備として、
まずは沖縄の歴史と向き合い、
風景と対話をしてきたいと思っています。

また、7月24日(金)に開催する
横浜の氷川丸でのイベントの方も、
色々な方が告知のご協力をしてくださっています。

その中で、「福島原発被害者支援かながわ弁護団」の皆様が、
約300名の方々にチラシをお送りくださいました。
<http://kanagawagenpatsu.bengodan.jp/>

祐希は、小学校1、2年生の時の担任の先生が
校長先生をされている小学校に
告知のお願いをしに行ってくれました。

皆様のお力添えをいただきながら、
是非、お一人でも多くの方々に
ご参加いただけたら嬉しいです！

イベントの詳細は、ホームページをご覧ください。
<http://www.dream-hasegawa.com/about/event.html>

それでは、本日も最後までお読みいただきまして、
誠にありがとうございました☆

これから毎日、梅雨空が続きそうですね。
皆様、お身体にお気をつけてお元気でお過ごしくださいね。

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見ブログ☆
<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

★*.....*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリイマンの物語」～感謝の風船レター～

2015.6.29 vol.63

★*.....*★

☆ご あ い さ つ☆

おはようございます。

昨日の関東は梅雨の中休み、
東北の方は激しい雨が降ったようですね。
体調を崩しやすい時期ですが、
皆様、お変わりございませんか？

さて、今年も早いもので半分が過ぎようとしています。
明日、6月30日は、夏越の大祓いの日。
我が家では毎年、地元の武蔵一宮氷川神社様を参拝しています。

人形（ひとかた）に自分の穢れを吹き込み、
茅の輪くぐりをして今年半年間の厄を落とすと
残り半分もがんばろう！と気持ちが引き締まります。

あと一週間ほどで七夕もありますね。
どうか皆様が毎日健康で素敵な夢を叶える日々となりますように…☆

それでは、本日は「今を生きるスターリイマンの物語」
第21話の第2章をお送りいたします。
最後までお読みいただけましたらとても嬉しいです。

☆第21話「今を生きるスターリイマンの物語」
森を守り森を未来へつなぐ環境創りに貢献する企業家

～第2章 石坂産業株式会社 代表取締役社長 石坂典子氏の家族の原風景～

Q1.石坂典子社長のご家族について教えてください。

私は父の石坂好男と母の登志子の長女として、
1972年1月29日に、練馬区関町に生まれました。
兄弟は3つ下の弟と6つ下の妹の3人弟妹です。
私は高3の息子と中2の娘がいます。

Q2.どんな幼少時代を過ごされましたか？

父と母は今の石坂産業の前衛のような仕事をしていて、共働きだったので、かぎっ子でした。

小学校から帰って来ると、3歳ずつ離れた弟、妹がいたので、妹の幼稚園に自転車で迎えに行ったりしていましたね。

草花が好きで、練馬でもキャベツ畑があって、キャベツの花や大根の花を摘んだり、道端に咲いている草花を集めて、母に持って帰ったりとかもしました。

梅のにおいとか、レンギョウとか、そういった花はわくわくしますね。特に春から夏にかけての季節の花が好きでした。

てんとう虫やモンシロチョウを捕まえて、籠に入れたり、つばきやさざんか、たんぽぽ、そういう花に興味を持って、花びら集めてみたりして、小学校低学年の頃は一人で遊んでいましたね。練馬には、小学校4年生の時までいました。

Q3.お父様のことを教えてください。

父は昭和17年7月24日、埼玉県深谷市に農家の4男として生まれました。

父の実家は、渋沢栄一さんの実家の近くで、深谷市によく寄付をして、深谷市の神社の建て替えに貢献していますね。

父の家は非常に貧しかったらしく、食べるのに困って苦勞していたので、高校には行けずに丁稚奉公に行くことになります。

魚やさんへ、そこが終わると、タクシーのドライバーをします。それが終わってから大型免許を取って、長距離ドライバーもやりました。

その時に母と知り合って結婚して、私が生まれるということになった時に、きちんと所帯を持って、家をもちたいと、子どもが食べていくのに困らないようにと起業しました。

その時、貯めていたお金で、ダンプ1台を買って、とび職の仕事を始めました。

その頃、世の中が高度成長時代で、
どんどん家の建て替え事業が増えて、
解体業を手掛けました。

その時、夢の島と呼ばれた東京・お台場へ、
解体したゴミを下ろしに行きましたが、
ゴミの中身を見ると、まだまだ使えるものが結構あり、
もったいないと思ったそうです。

父はこれからリサイクルの時代が来ると思ったらしく、
リサイクル業を始めようと、そこから勉強をして、
リサイクル工場を作るために、練馬だと土地がないので、
ここ(三芳町)に土地を見つけました。20年ぐらい前のことです。

ここを選んだ理由は、父は深谷の出身なので、
実家へ行くのに関越自動車道を利用していました。
練馬インターと所沢インターは、いつも渋滞します。

ここだったら都心までも15分ぐらいで行けますし、
都内で仕事を続けていくのも所沢インターがよいだらうと、
所沢で土地を探し始めました。

私もそのころ、父について行ったりしていました。
あちこち狭山湖周辺なども探したりここがいいかなと思っても、
廃棄物置き場が出来るということで反対される方もいました。

そういうことで、ここは雑木林に囲まれ何もなかったので、
最終的にここを選びました。

それから、ここを最終的な住家にしようということで、
建てたかったのはやはり家でした。

大工さんに頼んで、自分の好みで家を建てようと床柱から選び、
庭付の大きな家を建てました。
会社から車で5分ぐらいの近くの場所にその家はあります。

家族共々引っ越して、私たち兄弟3人に一人ずつ部屋を与え、
それが一生懸命働いてきた父の夢でした。
そしてやっとの思いで工場を建てリサイクルを始めていこうと、
スタートしたのが20年ぐらい前です。
苦勞して、とても大変だったと思います。

<当時、そんなお父様の姿を見てどう思いましたか？>

ほとんど毎日帰りが遅くて、私たちが起きている時には
帰ってきませんでした。
とても厳しい人です。よく叱られました。

正座をしてご飯を食べていないとよく叱られました。
子どもの頃はどちらかというと、
怒られたくないので、なるべく離れたいという気持ちがありました。

でも、その私が、高校を卒業して、海外に行かせてもらっていた頃、
海外に父が一人で迎えに来たことがありました。
とても心配をさせてしまいました。
帰ってきてほしいと言ってもいました。

親心がわかる年頃にもなって、日本に戻って来た時に、
手伝いに来ないかと言われて、会社に入り、
父が創めたこの仕事の素晴らしさ、人が嫌がるような仕事を続ける事が
どれだけ大変かを知りました。

人がいないと言う廃棄物を処理するわけですから、
やりたくないと思う人が多い仕事だなと、私も思います。
やっぱり製造業みたいなパンを作ったり、化粧品を開発したといった
夢のある仕事の方が人気がありますよね。

私はネイルサロンを開こうと思っていたので、
美しくなること、きれいになることというより、
汚いものを片づけていくところの凄さを、
間近でみて、初めて感じました。

それまではあまり興味がありませんでしたが、
父親のやっていることを手伝い、
すごい仕事していると思いましたし、
世の中に本当になくってはならない仕事なんだと
20代の頃、すごく痛感したんです。

父が考えたゴミの山から、リサイクルという発想は、先見の目がありました。
そして、この業界では老舗に入るくらいのカリスマ経営者として、
業界の中では言われていました。

しかし近隣のみなさんに理解を得るのが難しい業界です。
汚いものを集め、迷惑な会社と言われてしまう様になります。

その火種になったのが、ダイオキシン報道です
猛烈なバッシングに変わっていきました。

私が育てられてきた中で、父親の背中をずっと見ながら育ち、
職人さんたちと一緒に生活し、可愛がってもらってきたので、
すごく感謝していました。

今までの過去の恩返ししたいと思ったので、
会社をやらせてくださいと父に頼みました。
31歳の時でした。

小さい時に、よく父の仕事のダンプに乗せてもらいましたから、その時の土とか油のにおいとか、そういう土木のにおいが好きでしたし、今でも安心します。

それは父親いわく、小さい時からおしめを持って、ダンプに乗せてあちこち連れまわしたと言っているので、私の中で記憶はなくてもそう言うにおいを感覚的に覚えていて、ダンプに乗ると安心します。脳の中で香りで記憶しているんですね。

父は、月曜日から土曜日までは忙しくしていましたが、日曜日はどこかに連れて行ってきて、特に家の近くの石神井公園に行って、ボート乗ったり、焼きそば食べさせてもらったりと、自然のある所へよく連れていってもらいました。

Q4.お母様のことを教えてください。

母は昭和19年2月4日、埼玉県寄居町に生まれました。母は父とはタイプが違って、私に自由になれとずっと言っていましたね。

海外に行ってどんどん世界をみて来なさいと言ったのも母ですし、とても強い人でした。

「自分の世界を縮めないように」が母の口癖でした。高校卒業してアメリカの大学に留学した時も、帰ってくるなと言って、やはり自分の世界、広い世界をみて欲しいと。私の結婚の時もそうでしたが、たくさんのものを知り、たくさんのものに出会いなさいという母でした。

私はすごく二人に影響されているんですよ。それぞれ違うところが半分ずつ入っているのかな。血液型も父はA型、母はB型で、私はAB型なんです（笑）。

Q5.小さい頃の夢から社長になるまでの経緯を教えてください。

小さい頃はお花屋さんになりたいと純粋に思っていて、小学校の時に好きなお花が、シロツメ草でした。あの香りとかも好きで。

母からは「雑草のように生きろ」と、踏まれても踏まれても力強く生きて行く…と教えてもらい、

小学校の卒業文集のタイトルを決める時に、
雑草と提案して、それが採択されて、
卒業文集のタイトルは「雑草」になりました。

今もそうなのですが、部屋の中を飾りつけて、
自分のお気に入りのスペースを作ることが好きだったので、
高校に入って、インテリアコーディネーターの道を選びたいと思い、
大学か専門学校で学ぶかを迷いながら、専門学校に入りました。

そこで、私はインテリアコーディネーターではなかったなあと思ったんです。
その後、視野を広げようと母親の後押しもあって、海外の大学へ行きました。

実際、海外の大学に行っても学校を辞めてしまい、放浪の旅を始めました。
その時にネイルとの出会いがあり、ネイサロンをやりたいと思い、
ネイリストになる学校に行きました。

今から20年前の事で、日本にはネイルサロンはなくて、
当時のアメリカの若い女の子は、カジュアルにネイルサロンに行って、
オシャレをする女の子たちがいて、私もちょうどその年頃で、
こんなに安くて、こんなに色々な種類を楽しめて、
ビジネスに絶対いいなと思いました。

もともと絵を描いたりするのが好きだったので、
ネイルは爪に絵を描いたりするアートですから、
ネイリストになりたいと思いました。

ネイルの免許を取って、ネイリストとして日本に帰って来て、
自分でフリーでやるための資金を稼ぐのに、
イベントコンパニオンを始めました。

そんな私の姿を見て、
だったら家の仕事を手伝ったらいいじゃないかと言われて、
20歳になるちょっと前に、ネイルサロンを開くための
アルバイトのつもりで会社に入りました。

25歳頃まではネイリストになるつもりなのですが、
父の会社の仕事を覚えていくうちに、仕事の楽しさが分かってきました。

しかも昔の人が、「結婚をして子どもを生んで一人前」
と言っていたのをいつも聞いていたから、20代で子どもを産んで、
その後、フリーで出来るようにしていきたいという人生設計立てていました。

結婚をして、24歳、25歳で子どもを出産しました。
2人目の子がお腹にいた1999年の時に、ダイオキシン報道が始まりました。
もう臨月に入る時でした。

TV報道と争っていて、報道から2年ぐらい経って、
「石坂出てけ」のバッシングが始まり、
父が築きあげた石坂産業が存続の危機に。

そんな時に、私は今までの父の歴史を、初めて父から聞きました。
父の思いの深さに感動して、その想いを受け留めて継いでいくのは
私しかいないと思いました。

弟も他の仕事をしていたし、私は10年間も父と仕事をしてきていたし、
私は父に社長をやらせてくださいと言ったんです。
父はびっくりして、そんなことは無理だから
女がやれるような仕事じゃないからと最初は言われてしまいました。

ダイオキシンの報道、バッシング騒動で、その頃お腹にいた2番目の娘は、
その後認可の保育園にも入れてもらえず、
不認可の保育園へ行かざるをえなくなりました。

私は仕事をどんどん覚えていって、父と二人三脚で、
これまで父に教えてもらってやってきています。
経営という勉強をしてきてはいなかったので、
父そのものが経営のお手本でした。

それを学んでくると、それを自分で習得して、
今度は自分が発信していくようになっていきました。

私が社長になって経営者の礎を築き始めた時には、
自分のやりたいことと、父がやりたいことが違ってきて、
それが一番つらい事でした。

父のやりたいことはわかりましたが、私の考えるよくしたいこともあり、
そういうのを父に提案していくのですが、却下されて行くわけです。

認められない、チャンスを与えられないという事で、
社員さんが辞めていくとか、社員に嫌われていくとか辛い事は、
色々ありましたが、一番つらいのは、
父との親子関係を悪くして行くことでした。

そもそも私は誰のために働いているのかということが根底にあって、
父を助けたいと、この会社をよくしていきたいと入ってきたのに
気づいたら父とバッティングして、
どうして私の気持ちをわかってもらえないの。
父は父で私にやらせたくない理由があって、つらかったんだと思います。

父と私のバトルは半端じゃありません。
誰も口出しできませんし、そう言いながらも、
押し通してやってきている所もあります。

役員会が支えてくれているといった事もありますし、
父が少しずつ折れてくれて、サポートしてくれているのを、
みんなわかってきています。

父が今まで評価されるフィールドが、なかなかありませんでした。
この仕事をしていて、ありがとうって言われる仕事ではなくて、
むしろ迷惑だって言われ続けてきた父のことを考えると
評価されるにはどうすればよいかといつも考えていました。
よくしていきたいと思って、私は社長をスタートしました。

家族経営の延長に私はいて、
ここまで来た今では、家族だけではなく
会社の社員も増えてきて、変わって行くわけですから、
制度を変えたり、父が望んできた家族経営は過度期になっていました。

家族仲良くみんなで作っていくことから、会社が組織化していき、
いわゆる公のものになっていくタイミングを創り出してきたので、
時代の変化だったり、タイミングで作って来たことです。
私としてはそれを選択せざるをえなかったところもありますね。

こうやってやってきた私の会社をよくしたいという想いを、
父は応援してくれました。

Q6.今後の展望を教えてください。

31歳で社長になって仕事してきて、家族の在り方だったり、
私自身も離婚したりと、子ども達に悲しい思いもさせたことがあります。

自分の進んで行きたいことを、子どもに示しながら、
子どもって思ったより大人なんだなあと、今は、理解してくれたりして、
二人にはこの仕事には価値があるんだなと言うことを知ってほしい。

あと働く人たちにも、単に稼ぎ難い会社じゃなくて、
仕事の意味とか価値がとかが、ものすごく高い価値ある仕事なんだよと、
わかってもらって働くということになれば、
働き易さ、働きがいが、まったく変わってきますよね。

この仕事の意味を価値を、もっともっと多くの人に知ってもらいたい！
そう思うようになり、それが工場見学だったり、
里山見学になっていくわけです。

最終的には私たち人間は、
自然に生かされているんだなって思うわけですよ。

自分の好きな草花とかを感じてみると、
生きてるって素晴らしいと感じることは、自然に感じるものだし、
会社もそれを無視できないと思うようになりました。

こういう時代に、環境が大事、環境が大事と言うけれども、
格好つけではなくて、自分たちで出来る身近なものの、
環境保全って何かなと思った時、私たちの活動の中で、
できる限り環境を汚さない工夫をしていくことです。

その工夫はまさしく社員が考えて、
環境ビジネスという仕事に就いたからには、
自分たちがどういう関わりを持って、
その仕事をやっていかなければならぬかを考えてみることです。

そういうきっかけを与えられることも、
自然との共生ということ、会社の理念の中に取り入れたことによって、
里山というところが見えてきて、荒廃していた里山を守っていくことに
繋がっていきました。

しかし非営利で守っていくということは、
非常に難しいじゃないかと考えています。

利益がないと何も貢献できませんし、下手すると社員のお給料が払えない。
そこはきちんと利益を追求して、
その利益を地域に、どう分配していくかが大切なポイントだと思っています。

里山を守って、里山を創り出した時に、森が喜ぶのは何だろうと。
森を活かされて、生活に生かして森は生きてきた。
森も喜ぶ。どうしたら森は愛されるんだろう。

環境教育が出来上がって、持続可能な教育とは、体験して感じること。
体感することが大切だよ。世界で言われているのならば、この森は提供できる。

絶滅危惧種がたくさんあって、この活動を始めて、
以前と比べて、絶滅危惧種の在来種が3.7倍に増えている。
それくらい復活してきて。この森を楽しんでもらうためには、
たくさんの人に見てもらおうことだろう。

それを進めるために、活動の場の認定というのを、
全国で7か所、埼玉県で1か所で、ここが唯一で
これがあることで、子ども達が遊びに来ること。

子ども達がたくさん来るということは、
森が喜び、たくさんの人が来て、
みんなが喜んでくれることで、森も喜んでくれる。

自然も感じとることで、自然と共生できる。
そういうことを考えて、人を呼ぶことが森が喜ぶこと。

だから、くぬぎの森交流プラザを創ることで、
たくさんの方が環境ということテーマに来てくれて、
森をちょっと歩いていただいて、
この環境が良いものであるということを知ってくれることで、森も生かされる。

里山崩壊しそうになった森を、持続可能に再生するには、
人を呼んで人に使ってもらおうことだ。

そして、交流プラザを創り、次にこの森を活かして企業創りとか、
環境創りとかをテーマに学んでいけるか。

それもみんな考えてもらいたい。
考えるフィールドを提供していくので
オープンラボを作りたいと思っています。

前例のない活動、事業活動でもないし、
知恵のフィールドを建設してみたい。
集まることにおいて、忘れられない森になる。
学生さんたちに使ってもらいたいですね。

例えば小学4年生は、毎年毎年いるから、
ここも繰り返し、繰り返し使ってもらおう意味づけが出来ます。

森はこのような形でテリトリーを固めていくと、
石坂産業の会社経営とした時に、事業規模はを上げるのは
これが限界だと思っています。

利益を出して貢献したいと思ったら、
会社自身も大きくなっていかなければ存続できないと思っています。

日本はこれから少子高齢化になって行くので、
働く子供たちも少なくなってきますから、
海外とかにも学校を創って、食べられない子ども達がいたら、
支援はできないかと思っています。

それをやるためにも、資金が必要で、
会社は利益を出さなければいけません。

そのために会社を大きくするために、別の工場を持つとか、
新規事業をやっていく必要があると感じています。

たくさんの人に来てもらい、私たちに賛同してくれることで、
この業種に対する皆さんの考え方意識を変えていきたいですし、
地域の人が同意してくれるか、同意してもらうために
見方を変えてもらえるようにしたいと思います。

そのためにも石坂産業だけが良くなっても、
産業廃棄物処理業界が、評価されませんから、
同業者さんも私たちと同じように設備投資をしたり、
人材教育をしたりすることがはじまれば、
いずれ業界の刺激になって底上げになると思っています。

たくさんの方に来てもらい、
真似できるところは真似してもらい、
全体がプラスになっていく。

こういう仕事はなくてはならない仕事だねと理解してもらえた時に、
周田から反対運動がおきない業界のスタイルや、
地域に必要とされる会社を私たち業界も創り出していき、
うちにも石坂産業さん来てくださいよと言われる様に、
他の地域でも同じスタイルで事業ができるようになって欲しいと思っています。

廃棄物をサイクルする。
今もまだ、あまり理解されていない所があります。
90%以上サイクルしてビジネス化していることを、
一般の人に知ってもらうために、積極的に見に来てもらいたいですね。

規模経営から質経営だと思っています。
人材の質を高めていければチャンスはいずれやって来て、
3代、4代目の社長へ引き継いでいけるとしています。

そのためにも質のいい会社となって、
父が言っている永続会社となるように、
基盤を固めて地道に頑張っていこうと思います。

Q7.石坂典子社長にとってのスターリィマンは誰ですか？

誰ではなくこうしたいなあと。
夢が大きいからそこに一個ずつ着実に、
今ある状況に合わせてチャレンジしています。

いつも根本、本質はどこにあるのかと、常に考えています。
渋沢栄一さんのように、人の話をよく聞いて、
柔軟な発想を持ち、いい物ものを取り入れて展開していく
会社創りをしたいとも思います。

私自身が、スターリィマンにならなくてははいけませんね。

「今を生きるスターリィマンの物語」
☆第21話の第3章は、7月9日(木)配信予定です！

石坂典子氏の家族の原風景は、
いかがでしたでしょうか？

100年先、200年先のずっとずっと未来を見据えて、
さらに価値ある事業に高め、世の中に広めながら、
大切なくぬぎの森が喜ぶことを実践していく。
なんと素晴らしい事業なのでしょう！

人生を賭けて、成し遂げて行く覚悟に心から感動しました。

典子社長の日常には、自然と共に過ごした
ご両親との思い出がいっぱいでした。

幼き日より、ご両親の背中を見ながら培って来た感性を
さらにご自身の努力で磨いていらしたことが、
きっとこれから益々輝いてゆくことと思います。

昨年12月にダイヤモンド社から出版した著書、
「絶対絶命でも世界一愛される会社に変える」
～2代目女性社長の号泣戦記～
<http://diamond.jp/articles/-/63961>

典子社長と前社長のお父様と共に
今の石坂産業になるための奮闘の日々が書かれています。

まだ読んでいらっしゃらない方は、
是非、読んでいただけたらとおススメいたします！

さて、次回は「今を生きるスターリィマンの物語」
第21話の最終章をお送り致します。

配信は、7月9日(木)です。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちしております☆

今週7月2日～9日まで、東北の活動に出かけます。

祐希は一足先に、1日から毎年恒例の東北ツアーへ。
安田未知子先生や鬼澤慎人さん、鬼丸昌也さん達と一緒に
岩手県の大槌町の「刺し子プロジェクト」の皆様や
宮城県の南三陸町の「南三陸ホテル観洋」の女将さんと
交流させていただくそうです。

刺し子プロジェクト <http://tomotsuna.jp/>
南三陸ホテル観洋 <http://www.mkanyo.jp/>

紙芝居プロジェクトをスタートして丸4年となる7月7日には、
現在、仙台で復興支援に奮闘中の藤原奈央子さんと
久しぶりにお会いする予定です。

今回も活動でも、きっと素晴らしい出会いが
たくさん待っていることでしょう☆

先週22日から24日に沖縄にお伺いさせていただいた際に
お世話になりました皆様、本当にありがとうございました。

私は残念ながらお伺いすることは出来ませんでした、
皆様が「お母さんは？」と仰ってくださいましたと伺い、
とっても嬉しかったです。

今年の6月23日の慰霊の日は、戦後70年目という節目もあり、
全国的にメディアで取り上げられていましたね。

ひめゆり学徒隊として壮絶な沖縄戦を経験された、
安田未知子先生が、ご自身の体験記を
先日WAVE出版さんからご出版されました。

戦争の惨さ、平和や命の尊さを次の世代にしっかりと語り継ぐために、
是非、お読みいただけましたらと願います。

「13歳の少女が見た沖縄戦」～学徒出陣、生き残りの私が語る真実～
<http://www.wave-publishers.co.jp/np/isbn/9784872909647/>

7月24日に開催する氷川丸イベントも、
いよいよあと一ヶ月を切りました。
皆様のお越しを心からお待ちしています。

詳細は、ホームページをご覧ください。

<http://www.dream-hasegawa.com/about/event.html>

それでは、本日も最後までお読みいただきまして、

誠にありがとうございました！

どうかお元気でお過ごしくださいね。

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見ブログ☆

<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

★*.....*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリイマンの物語」～感謝の風船レター～

2015.7.9 vol.64

★*.....*★

☆ご あ い さ つ☆

おはようございます。

皆様、お変わりございませんか？

私たちは、7月2日から

スターリイマン紙芝居プロジェクトの活動で

東北各地をまわっております。

これまでに、宮城県気仙沼市、石巻市

福島県南相馬市の保育園さんや介護施設さん、

復興公営住宅などにお伺いさせていただきました。

その中で、とっても不思議な出会いがありました。

6日に気仙沼市の復興公営住宅のコミュニティセンターで、

住民の皆様とその住民の方々を支えている支援員の皆様に

紙芝居ライブと、「被災地の未来を輝かす心の原風景」9作品の

お話の会をさせて頂いた時に、

三陸新報の守さんという記者さんが取材に来てくださいました。

最後に名刺交換をした時、

「僕、スターリイマンのブルーの本を持っていて、

子ども達にずっと読み聞かせをしてたんです。

その作家の皆様にお会いできるなんて感激です」

と守記者さんがおっしゃいました。

ええ～！私の方こそ驚きです。

そればかりではありません。

今年の3月11日に、気仙沼市主催の

東日本大震災の追悼式に参列した際、

三陸新報の当日の記事の写真に私たち3人が写っていたことを

守記者さんにお話したら…

「その記事、僕が取材して書いたものです」

またまた、驚きです。
ご縁とは本当に不思議なものです。
目に見えないけれど、どこかで繋がっているんですね。

さて、本日は、福島キワニスクラブの皆様と共に
福島市の小児科病棟さんと、福祉施設さんにお伺いさせていただく予定です。

約一週間にわたる東北ツアーもいよいよ最終日。
張りきってがんばりたいと思います！

それでは、[今を生きるスターリイマンの物語]
第21話の最終章をお送りいたします。
最後までお読みいただけましたらとても嬉しいです。

☆第21話「今を生きるスターリイマンの物語」
森を守り森を未来へつなく環境創りに貢献する企業家

～第3章 石坂産業株式会社 代表取締役社長 石坂典子氏の
スターリイマンに宛てた感謝の風船レター～

『感謝の手紙』

～里山と共に育つ～

「昔は、山百合が群生していたのよ。」と
地元のお年寄りから話を聞いた時、
何をしていくべきか、私の所にスターリイマンが舞い降りた。

私の経営する会社の周辺は歴史深く、
遡る事江戸時代・第五代将軍徳川綱吉の窮愛を受けた
側用人・柳沢吉保が農地として開拓した時に
自工林（農用）として育てた里山に覆われている。

しかし昨今では近代化により、人の手が入らない森は荒廃化が進み、
ジャングルとなった里山には山百合が見られない。

そのような森を見てきたのを切っ掛けに、
知らぬ土地の森づくりに予算を掛け満足する事を望んでいなかった私は、
創業者である父と共に、10年ほど前から森の再生をスタートさせる事となる。

落葉樹の森は手入れをはじめると、新しい表情を見せ、
新たな草花や生き物が集まり、里山は明るく生きている事を
私たちに大きく見せつける。
そして日々変化するその姿に、自然の命の尊さと恩恵に浴する事となった。

～人は自然に生かされている～

時代の変化と共に失われていく木々。

先代が自然と共存してきた里山を、
私たちがどのようにこれからの時代、次世代に繋いでいけるのか。

木々も、人々が訪れることを嬉しく思ってくれるはず。
失われつつある滅危惧種が姿を現しはじめた。

多くの人に足を運んでもらい自然の恵みを五感で体感してもらう事で、
森も喜び「互いの必要性を認識する場」となると考えた。

公の場として「学びの里山」として、広く開放していこうと決めた。

～三富今昔村が生まれる～

時が流れても自然と共生する事を忘れてはならない。

その事を伝えていく場として、年間を通じて幼子からお年寄りが数千人訪れる。

昔から今を繋ぐ場として、人々の「気づき」の場となれば、
この里山も喜ぶだろう。

スターリィマンの訪れたこの里山は、
人々と里山を「夢」「希望」「愛」「勇気」「元気」「友情」「信頼」
そして「未来」と「幸せ」へと導く事となる。

夏に咲く、大輪の山百合を眺めながら、受けた命に思いを馳せている。

石坂 典子

「今を生きるスターリィマンの物語」
☆第22話の第1章は、7月19日(日)配信予定です！

石坂典子氏のスターリィマンへの感謝の風船レターは、
いかがでしたでしょうか？

スターリィマンが舞い降りた所には、
過去からの大切なふるさとの宝物が
いっぱい輝いていました。

その姿を典子氏が宝物だと気がついたからこそ
くぬぎの森はたくさんの贈りものを届けてくれているのでしょう！

身の回りで起こる出来事や
目の前の現象ひとつひとつを真摯に受け止め、
常に考え、行動してこられた典子氏だからこそ、
与えられたミッションなのかもしれません。

典子氏のインタビューをさせていただいた時から、
私の中で封印していたスターリイマンの処女作品である
物語「ヒューマン☆ズ LOVE」を見て聴いていただきたいと
強く思うようになりました。

そして、決心しました。
2017年に何らかの形で
この物語を皆様に見て聴いていただけるようにする。

この作品がなければ、私は今日まで
スターリイマンの作品を描き続けてこれなかったと思います。

1989年7月から書き始めて、ちょうど今月で丸26年になりました。
私にも、天からスターリイマンが夢の風船を届けに舞い降りたのでしょうか！！

典子さん、典子さんのおかげで決心できました。
心から感謝申し上げます。

さて、今回は「今を生きるスターリイマンの物語」
第22話の第1話をお送り致します。

配信は、7月19日(日)です。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

☆後 記☆

2日前の7月7日・七夕の日で、
スターリイマン紙芝居プロジェクトを開始して、
丸4年となりました。

東日本大震災で被災した子どもたちに
スターリイマンの紙芝居を贈りたいと
沖縄の皆様がプロジェクトを立ち上げてくださって、
2011年7月7日の七夕の星に復興を祈念して
沖縄県立美術館からスタート。

沖縄をはじめ、日本全国の皆様から数々の応援をいただき、
自分達でも驚いてしまうほど、たくさんの活動をさせていただきました。

活動を支えてくださった皆様、
活動を通して出会えたすべての皆様、
本当に本当にありがとうございます！

この4年間で出会った子ども達、地域の皆様の幸せを祈りながら、
本日の夕方、帰路につきたいと思います。

そして、7月24日に開催する氷川丸イベントも15日後となりました。
皆様のお越しを心からお待ちしています。

詳細は、ホームページをご覧ください。
<http://www.dream-hasegawa.com/about/event.html>

それでは、本日も最後までお読みいただきまして、
誠にありがとうございました！

どうかお健やかに過ごしてください☆

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見ブログ☆
<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

発信元：はせがわ芳見
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2
TEL/FAX：048-671-7708
HP：<http://www.dream-hasegawa.com>
blog：<http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>
